

全国財務局長会議席上配付資料

- I 最近の関東財務局管内の経済情勢
- II 地域におけるAI活用を巡る現状
- III 特徴的なAI企業の事例紹介

令和8年1月29日
関東財務局

I 最近の関東財務局管内の経済情勢

	前回（7年10月判断）	今回（8年1月判断）	前回比較	総括判断の要点
総括判断	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、食料品を中心に物価上昇の影響が目立つものの、持ち直している。生産活動は、生産用機械、化学などが増加するなか、一進一退の状況にある。雇用情勢は、人手不足を背景に企業の採用意欲が高い状況にあるなか、改善しつつある。

[先行き]

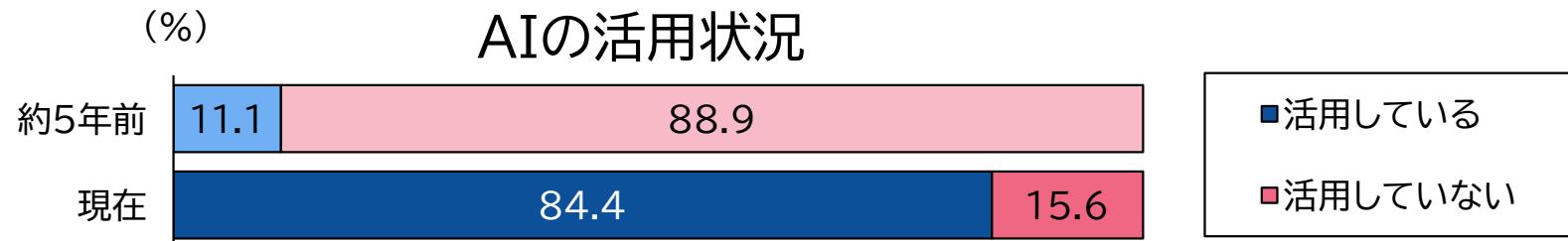
先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、今後の物価動向、米国の通商政策、金融資本市場の変動等の影響に注意する必要がある。

	前回（7年10月判断）	今回（8年1月判断）	前回比較
個人消費	食料品を中心に物価上昇の影響が目立つものの、持ち直している	食料品を中心に物価上昇の影響が目立つものの、持ち直している	➡
生産活動	一進一退の状況にある	一進一退の状況にある	➡
雇用情勢	人手不足を背景に企業の採用意欲が高い状況にあるなか、改善しつつある	人手不足を背景に企業の採用意欲が高い状況にあるなか、改善しつつある	➡
設備投資	7年度は増加見込みとなっている(全規模・全産業ベース)	7年度は増加見込みとなっている(全規模・全産業ベース)	➡
企業収益	7年度は減益見込みとなっている(全規模ベース)	7年度は減益見込みとなっている(全規模ベース)	➡
企業の景況感	「下降」超となっている(全規模・全産業ベース)	「上昇」超となっている(全規模・全産業ベース)	↗
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	➡
公共事業	前年を上回っている	前年を上回っている	➡
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている	➡

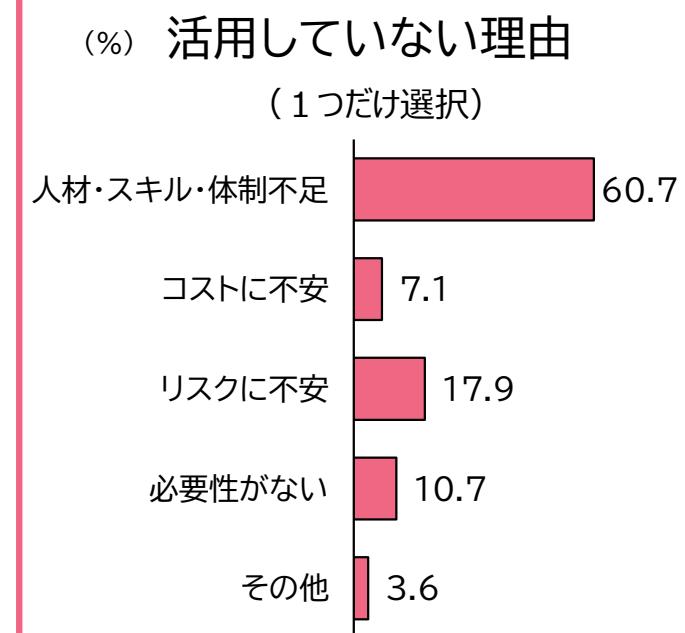
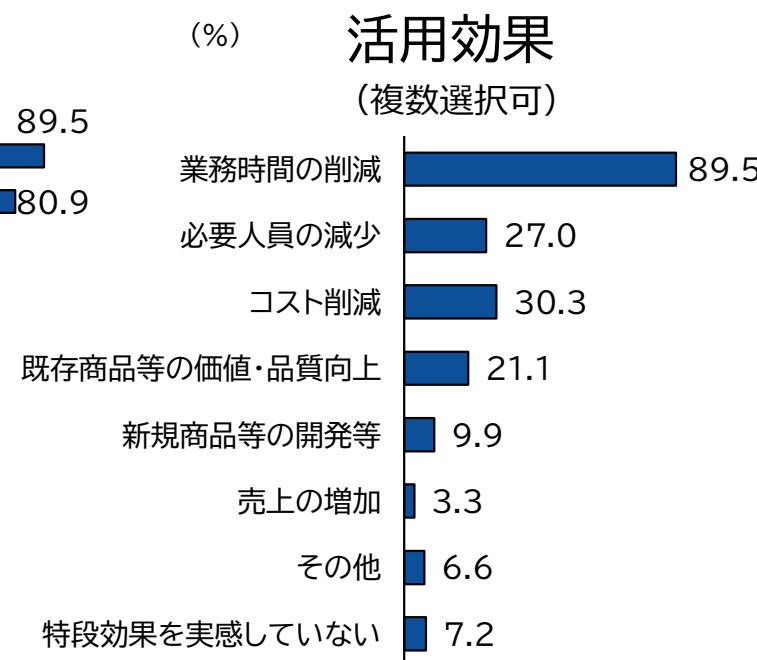
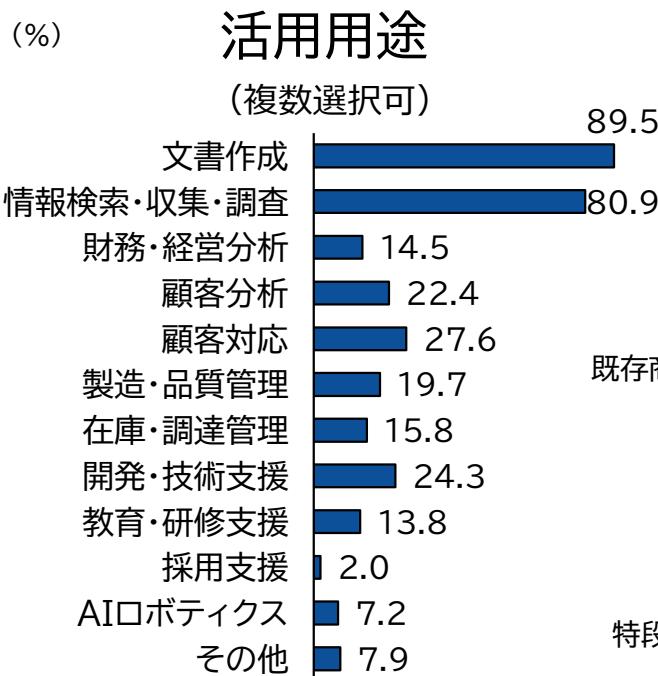
※8年1月判断は、前回7年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

Ⅱ 地域におけるAI活用を巡る現状

- 約5年前と現在を比較すると、AIを活用している企業の割合は84.4%に増加し、活用していない企業は15.6%に減少した。
- 現在AIを活用している企業は、活用用途として、「文書作成」、活用効果として、「業務時間の削減」を挙げる先が多い。
現在AIを活用していない企業は、活用していない理由として、「人材・スキル・体制不足」を挙げる先が多い。



(※) 関東財務局及び管内各財務事務所が
企業に対してヒアリングを行い180社から回答



II 地域におけるAI活用を巡る現状（特徴的な企業の声）

【AIを活用している企業の声】

《文書作成、情報検索・収集・調査等》

- 議事録の作成、情報検索、問い合わせへの自動回答にAIを活用している。ゆくゆくは人員削減に繋げたいと考えている。（食料品・大）
- AIを活用した議事録作成により、これまで3～4時間かかっていた作業が、約1時間で完了するようになっている。（建設・中堅）
- 複数のAIを併用し、議事録作成やメール要約、情報検索、顧客対応チャット等に活用している。また、Agent機能を組み合わせることで各AIを連携させ、単純作業の自動化を進めている。これにより、年間約5.9万時間の業務削減効果を見込んでいる。（不動産・大）
- 口コミへの返信内容を以前は従業員が全て考えて作成していたが、現在はAIに作成させた案文を修正したものを返信している。以前は3件返信するのにかかっていた時間で10件の返信が可能になり、作業効率が向上した。（宿泊・中小）

《製造・管理・支援等》

- AIを活用し、原料の異物除去や効率的なカットを行うとともに、作業の自動化によって省力化と合理化を進めている。結果、他の4工場が約220名で生産しているところ、同工場では約50名で対応可能な生産体制を確立している。（食料品・中堅）
- AI判定機能を備えた自動検査機を導入し、製品検査の効率化と検査要員の削減を図っている。（自動車・同附属品・中小）
- 情報検索・収集、品質管理（歩留まり分析）、開発技術支援（設計の自動化）、資料作成などに活用している。業務時間の削減、品質の向上、既存製品・サービスの付加価値向上といった効果が得られている。（その他の製造・大）
- 平常時には、加工食品やデイリー食品の需要予測（天候、客数等を考慮）、自動発注にAIを活用している。発注業務にかかる時間が減ったことで、従来この業務を担当していた従業員が、別の業務に取り組めるようになった。（小売・大）

II 地域におけるAI活用を巡る現状（特徴的な企業の声）

【AIを活用していない企業の声】

《人材・体制不足》

- AIを戦略的に活用することができる知識のある人材が不足しており、ノウハウがない。（小売・中小）
- 今後はAIを活用し、様々な業務に対応していく必要があると考えているが、現時点では体制が整っておらず、活用できていない。（小売・中小）
- 社内に専門知識を持つ人材がいないことに加え、業界として「接客やコミュニケーション」を強みとしているため、AI導入が進みにくい。（小売・中堅）

《ニーズにあったAIが存在しない》

- まずは事績を収集していきたいが、BtoBの製造業ではAIの活用事例を聞かないことから、AIの利用用途が限られると感じる。（金属・中堅）
- 日配業務で発生する突発的な対応には十分に対応しきれず、AI活用が難しい場面が多い。（陸運・中小）
- 当社のように営業拠点が多い企業では、ある程度製品化・パッケージ化されたものでなければ、全社的な活用が難しい。（小売・中堅）
- 現時点では、業務運営上でAIを活用する場面が思い当たらない。（小売・中堅）

III (事例紹介①) 国産の先端AI企業

(株)Preferred Networks

(本 社) 東京都千代田区 (設立) 2014年 (従業員) 約400名

- ・国産AIの中核を担う先端AI企業
- ・AI半導体、計算基盤、生成AIモデル、ソリューションを自社で開発し、幅広い産業に展開
- ・トヨタ、ファナック、ENEOS、DBJなどが出資

AI技術の垂直統合 (※)

(※) AIの開発・提供に必要な複数のレイヤー(階層)を、外部に依存せず自社で一貫して開発・運用

レイヤー	概要	主なライバル製品(企業)
垂直 統合	AI半導体 AI専用のプロセッサー「MN-Core™」シリーズを神戸大学と共に開発し、提供。 <u>生成AIの推論を高速かつ高効率に処理する専用の半導体(チップ)「MN-Core L1000」も開発中。</u>	<ul style="list-style-type: none">・H100, B100 (NVIDIA)・TPU (Google)・Gaudiシリーズ (Intel)
	計算基盤 汎用GPU(画像処理プロセッサー)とAI専用のプロセッサー「MN-Core™2」を搭載したサーバー群で <u>大規模計算基盤を構築し、研究者や開発者に高効率な環境「Preferred Computing Platform™ (PFCP™)」を提供。</u>	<ul style="list-style-type: none">・DGX Cloud, DGX Systems (NVIDIA)・TPU Pod, Vertex AI (Google Cloud)・EC2 P4/P5インスタンス (AWS)
	生成AI基盤モデル 日本語に強い国産の大規模言語モデル「PLaMo™」をゼロから開発し、AWS等のクラウドサービス、企業の自社環境(オンプレミス)で使えるよう提供。	<ul style="list-style-type: none">・GPTシリーズ (OpenAI)・Claudeシリーズ (Anthropic)・Geminiシリーズ (Google DeepMind)
	AIソリューション・製品 最先端のAI技術を活用し、プラント自動化や材料探索、医療、小売業務改善など、幅広い業界向けにソリューションや製品・サービスを開発・提供。	-

III (事例紹介①) 国産の先端AI企業

主な実装事例

▶ 【小売】 チェーンストア向け業務改善ソリューション (MiseMise™)

- ・AIとロボットを活用し、在庫管理・自動値引き・店内巡回を一体的に提供。
- ・品出し作業を5時間短縮、滞留在庫を約50%改善し、欠品防止と業務効率化を実現、人手不足の課題にも対応。



売れ筋ヒートマップ

売上データとフェースの相関関係をヒートマップで視覚化。効率的な商品配置の判断が可能です



商品名	売上	本数
ミセコーラ	37,000円	245本
ミセソーダ	23,000円	150本

販促

効果的な商品宣伝を簡単に実施。MiseMiseの品出し情報やAIによる最適値引き商品を活用し、タイムリーなお客様アプローチが可能です



出所：(株)Preferred Networks HP「Misebo」

▶ 【製造】 石油精製プラントのAI自動運転

- ・ENEOSと共同で、熟練技術者の知見と深層学習を融合し、世界初の常圧蒸留装置のAI自動運転を実用化。
- ・AIが膨大なセンサー情報を解析し、運転条件を最適化することで、安全性を維持しながら省エネルギー・低コストを実現し、人材不足にも対応。

▶ 【材料探索】 材料開発向けAIソリューション (Matlantis™)

- ・AIによる高速シミュレーションで物質性能を事前に予測し、従来必要だった膨大な実験を大幅に削減。
- ・電池や半導体などの材料開発期間を大幅に短縮し、コスト削減と技術革新を加速。

▶ 【医療】 創薬研究向けの受託計算サービス (P-FEP)

- ・分子シミュレーション技術とスーパーコンピュータを活用し、低分子化合物（医薬品候補化合物）がタンパク質に結合する強度を独自技術で高精度に予測。創薬研究の効率化に貢献。

III (事例紹介②) スタートアップのAIロボティクス企業

(株)Closer

(本 社) 茨城県つくば市 (設 立) 2021年 (資本金) 23,000万円 (従業員) 約25名

- ・筑波大学発のAIロボティクス企業
- ・フィジカルAI技術による高度な制御と、小型・低コストで操作が簡単なロボットに強み
- ・食料品・化粧品・医薬品などの「三品産業」を中心の人手不足が深刻な分野に特化

主要製品

Palletizer™ (パレタイジー)

- ・重い段ボールの積載作業を自動化、AIが適切な積載を判断。AIによる積載ルート設定・オートレイアウト機能を有し、操作が簡便。
- ・小型・可動式であり工事不要で既存ラインに即導入可能、省スペースで運用。



小型・コンパクト

1人分の作業スペースにフィットし、既存の製造ラインに簡単に導入。



可動式

キャスター付きで簡単に移動可能。複数の製造ラインへの導入にも対応。

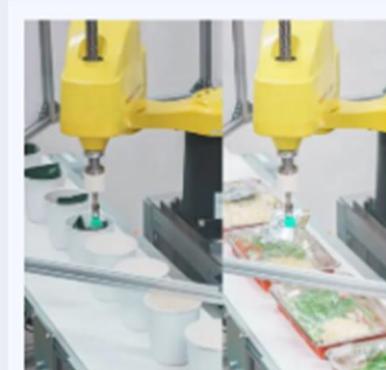
PickPacker® (ピックパッカー)

- ・AIによる画像認識を活用し、難易度の高い小袋（液体を含むパウチ）のバラ積みピッキングを自動化（食品製造ラインでの容器詰め・箱詰め等）。
- ・高精度、低コスト・省スペースで対応可能。



小型・コンパクト

1人分の作業スペースにフィットし、既存の製造ラインに簡単に導入。



多品種少量生産に対応

1台のロボットで複数の作業を行える。

III (事例紹介②) スタートアップのAIロボティクス企業

製品の強み

▶ 中規模製造ラインの省人化とコスト削減

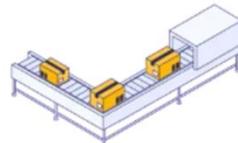
- ・中規模製造ラインの作業を容易に自動化することが可能。また、メインの大型ラインがすでに自動化されている大企業であっても、サブラインでは手作業が残っており、自動化する目的で導入している事例有り。ただし、一定程度の規模がなければ導入効果は限定的。

▶ 安価な製品価格

- ・ハードウェアを含めた一体設計、機能を絞った設計により低価格化を実現。
- ・人員1名（人件費約400～500万円）を代替する場合、2～4年で投資回収が可能。

▶ 導入容易性と高い操作性

- ・社内にエンジニアを抱えていない中堅・中小企業であってもラインの自動化が可能。
- ・操作は簡単で、従業員の教育コストも低廉。



生産性3倍

人と同じ速度で24時間稼働



1時間で1200ピック

1分間に最大20回ミスなくピッキング



最大80%コスト削減

人の採用・教育・マネジメントが不要



労災を0に

怪我につながる重労働を無くせる

出所:(株)Closer HP